

十勝は、
厳しい自然の中で生まれた。

わたしたちが尊敬する先人たちは、
山深い自然や大雨で
氾濫する十勝川と立ち向かい、
幾度の失敗を重ねながらも
不屈のチャレンジ精神で、
自らの手で巨木を切り倒し、
少しずつ畑を開きました。
その開拓者の精神が
今も十勝に流れ、
につぼんの食糧基地
としての生産活動を
支えつづけています。

十勝 おやじの 背中を 超える会

Tokachi
New Generation
Farmers

「十勝おやじの背中を超える会」

それは、十勝で土と生きる父の背中を見て育ち、
命をまもる食づくりのすばらしさを
教えられた、若手生産者たちの集まり。
「いろんな人が“食”に関心をもつきっかけになりたい」
「子どもたちにほんものを伝えたい」
「食べてくれる人の顔がみたい、心を近づけたい」
「消費者と生産者の信頼関係を結びたい」
「十勝の大地でつくった物を食べてもらいたい」
「につぼんという国でつくられる
食物のすばらしさを知ってほしい」
「ぼくらの見ている家族、大地、
この国の未来をいっしょに見つめてほしい」
「農業の魅力を感じてほしい」
「十勝の恵みをにつぼんみんなのものにしたい」…
それぞれが、言葉にしきれない思いを胸に
きょうも大地と向きあっています。
その想いが美味しさとなって、
きっと皆さんに届いていくと信じて。

Obihiro

Tokachi

十勝は、につぼん全国 みんなの食糧基地。

寒冷で気象条件の厳しい十勝ですが、
恵まれた土地資源を活かし
近代技術の導入や土地基盤整備を進めることで、
農業を主に林業・漁業など1次産業の
担い手として栄えてきました。
その力となっているのは
代々この地を耕しつづけてきた生産者たち。
自分たちの誇りであり、
この国の生命源となっている
豊かな大地を守りながら、
美味しい恵みをより多くの人に届けたい。
そんな生産者たちの強い意志に支えられ、
につぼん随一の食糧基地は
きょうも安心・安全なおいしさを育てています。



につぼんのしあわせな 「いただきます」を守りたい。

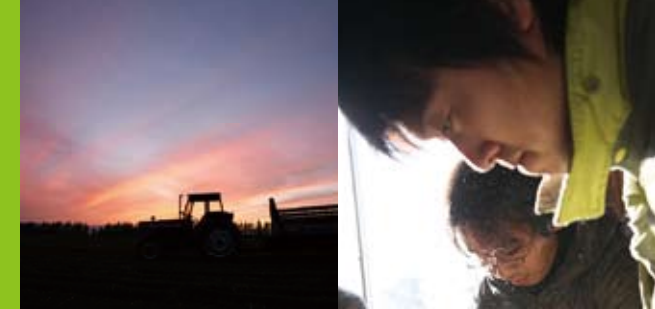
ところでちょっと問題です。
東京1%、大阪2%、北海道約200%、十勝約1,100%、
全国平均約40%、これは何の数字でしょう。
じつはにつぼんの食料自給率です。
(平成18年度概算値:カロリーベース)
食生活が欧米化して、コンビニ食、
ファーストフード、安価な輸入品がふえて…
便利で自由になるかわり、
「ほんとうの日本食の美味しさ」や
「食べものに感謝する心」は
急激に失われつつあります。
けれどこの国にはまだ、
たくさんの美味しいものがつくられています。
手をあわせて「いただきます」をする
子どもたちが育っています。
いつまでも、につぼんの食生活をしあわせに。
それが生産者たちの心からの願いです。

父をはじめ、 先人から受け継がれる 十勝畑作四品。

小麦、大豆、じゃがいも、さとうだいこん(てん菜)、
これら4つを“十勝畑作四品”といいます。
厳しい自然環境にあわせて作られてきた、
十勝を代表する生産物の原点です。
より多くの人に良いものを届け、
かけがえのない家族を守るために
日々厳しい自然と対峙してきた十勝のおやじ。
そんなおやじや先人たちが作りあげた
十勝の伝統ある四品は、につぼんの食糧自給に
おいても重要な作物です。小さなひとつぶに
ずっしり詰まった想いのすべてが、
若い世代の生産者にもしっかり受け継がれています。

つくる人と食べる人の
赤い糸をつなげたい。

たとえば、大豆や小麦の製品を買うとき、
生産者を応援する気持ちで、国産のものを選ぶ。
ささいなことでも、それこそが
都会の消費者と生産者をつなぐ絆になります。
大切なのは、お互いを理解したいと思う心。
食べる相手を想ってつくる、
つくる相手を想って食べる。
美味しさがつなげる赤い糸を、
どうか皆さん感じてください。



北の国より、希望をこめて。 《につぼん食糧供給 プロジェクト》、始動。

十勝のために、につぼんのために。
もっと生産者と消費者の絆を深めて
「につぼんの食のすばらしさ」や
「食糧自給の大切さ」を伝えたい。
そんな“十勝おやじの背中を超える会”の願いから
生まれた《につぼん食糧供給プロジェクト》。
食糧基地、十勝に育つ自分たちだからできること。
ひとつずつチャレンジして前進していきます。
十勝の大地から、広がる明日に目を向けて。

